

**2025年3月期 第2四半期決算  
テレフォンカンファレンス 質疑応答要旨**

日 時：2024年11月7日（木）19：00－19：45（説明：20分、質疑応答：25分）

形 態：電話会議

説明者：代表取締役社長・COO	松林 良祐
取締役 執行役員 女性活躍推進、人事、広報・IR担当	
	井上 喜久栄
理事 広報・IR推進室長	植杉 文

**<全社>**

**■ 上期業績について**

**Q：上期営業利益の予想 330 億円に対して、実績は 320 億円となりましたが、予想を下回った要因について教えてください。**

A：上期予想を下回った要因は、主にデジタル&インダストリーグループです。機能材料ユニットにおいて、原料調達元の定期修繕による調達影響を受けたことに加え、主要なお客様におけるトラブルにより、販売が一時的に停止した影響がありました。

**■ 成長領域の取り組み状況について**

**Q：エア・ウォーター防災(株)が海外グループ会社と連携して国内でプロジェクトを推進するなど、データセンター向け高出力 UPS（無停電電源装置）が伸長しているとのことですが、高出力 UPS 事業の状況について教えてください。**

A：特に、北米・アジアを中心に引き合いが増えており、受注金額は前年対比で 20～25%増加しています。国内においても、非常用電源装置の案件を獲得しています。

**■ 持分法利益について**

**Q：持分法による投資利益（以下、持分法利益）が大幅に増加していますが、どのセグメントに所属しているのか教えてください。**

A：持分法利益は調整額で処理をしております。また、本利益計上と同時に、在庫評価損として会計上の処理をしました。いずれも一過性の損益として調整額に計上しています。

## <事業別>

### ■デジタル&インダストリー

**Q：半導体市況の回復の遅延によりデジタル&インダストリーにおける通期予想を下方修正されましたが、依然として下期に大きく営業利益が偏る予想となっています。計画進捗の具体的な状況を教えてください。**

**(期初予想比 売上収益▲80億円、営業利益▲18億円)**

A：下期も引き続き、産業ガスの価格改定効果が継続するとともに、機器・工事が期末である第4四半期に集中する傾向があるため、下期偏重型の計画としています。加えて、上期は、機能材料分野において基礎化学品の製造・販売が一過性の要因で停滞しましたが、下期からは回復を見込んでいます。

**Q：2024年4月より実施している産業ガスの価格改定について進捗状況を教えてください。**

A：炭酸ガスが設備トラブルで工場が停止した影響を受け、価格改定に一部遅れが発生しましたが、産業ガス全体で見ると計画通り進展し、上期業績の伸長に大きく貢献しました。下期においても、炭酸ガスで価格改定が遅れた分の巻き返しも含め、引き続き、価格改定効果が寄与する見込みです。

### ■ヘルス&セーフティー

**Q：通期業績予想について、売上収益を上方修正し、営業利益を下方修正した理由について教えてください。**

**(期初予想比 売上収益+20億円、営業利益▲4億円)**

A：売上収益は、サービスユニットが予想を上回ったため、上方修正をしましたが、営業利益への寄与は小さい想定です。一方、上期でコンシューマヘルスユニットが計画よりも下振れたため、営業利益を減額しました。

### ■アグリ&フーズ

**Q：上期において猛暑による業績への影響はありましたか？ また、今年度は天候不順による業績へのマイナス影響はなかったとのことですが、来年度はどのように考えればよいでしょうか？**

A：猛暑により飲料分野で需要が伸長したことで、プラスに貢献しました。なお、農産・加工分野においても、猛暑による農産物への影響はありませんでした。

来年度についても、天候不順があれば業績へのリスク要因になり得ると考えています。ただし、原料野菜の調達地の分散化を行うなど、リスク低減の取り組みを並行して進めています。

**Q：リテールユニットについて今後の成長戦略を教えてください。**

A：リテールユニットは、野菜加工や青果物流で合理化等の効果を狙い、4社協業を強化しています。青果物流の分野では、すでにその効果は出始めており、今後もその効果を最大化すべく、取り組みを進めていきます。

■その他

**Q：下期予想を上方修正した背景を教えてください。**

**(期初予想比 売上収益+20億円、営業利益+10億円)**

A：北米において水素リチャージャー<sup>※</sup>等の販売が好調であること、電力分野で発電燃料として使用している PKS (パーム椰子殻) 価格、および海上輸送コストが想定よりも低い水準で推移しているため、上方修正を行いました。

※液化水素の輸送とガス水素の充填が1台で可能となる移動式水素ステーション

**Q：海外産業ガス事業(インド・北米)の上期の状況について教えてください。**

A：【回答訂正】インドは、電力価格の下落に連動し販売単価が減少したものの、為替影響により増収となりました。今後のプラントの新規稼働に向けた、顧客の獲得など事業拡大の取り組みを進めています。

北米は、2024年度にM&Aを実施したガスディストリビューターの新規連結効果が大きく寄与するとともにガスの販売数量が順調に増加しています。下期は新規連結効果に加え、水素リチャージャーの販売等が寄与することを見込んでおり、下期の業績は伸長する見込みです。

**Q：木質バイオマス発電事業について、24年度は前年同期比で大きな業績の変動はないようですが、25年度以降の見通しを教えてください。**

A：木質バイオマス発電事業は、PKS 価格、為替、海上輸送コストなど、複数の要因で業績が変動します。業績にマイナス影響を与えていた滞船料については改善しておりますが、今後も港湾施設と調整しながら合理化を進めていきます。

以上